

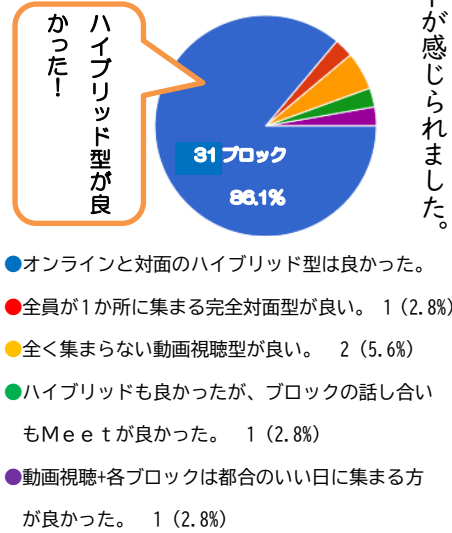
ふれあい つながり かわら版

第一回小中一貫教育推進 担当者会を終えて

五月十七日(火)に総合教育センターと各中学校ブロックをオンラインでつなぎ、本年度の第一回担当者会を開催しました。代表校長を務めていただいた四郷学院の尾野校長先生から、姫路市の目指す小中一貫教育の重要性を現場目線でお話していただきました。また、幹事長を務めていただいている白鷺小中学校の星川先生からは、白鷺の実践を交えながらカリキュラムマネジメントの大切さとブランドカリキュラムの必要性についてお話いただきました。

全体会後に行ったブロックごとの話し合いの際には、複数のブロックから、ブランドカリキュラムの作成を終えている四郷学院に対してGoogle Meetを通じて質問がありました。ご質問いただいた先生方、それに丁寧にご答えくださった四郷学院の先生方、ありがとうございました。対面とオンラインのハイブリッドのメリットが感じられました。

担当者会の開催方法について



姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



事後のアンケートでは、多くのブロックが「オンラインと対面のハイブリッド型は良かった。」と今回の開催方法に対して、好意的な回答を

していることが分かります。Google Meetによる会議の参加人数の上限が100人のため、ブロックの話し合いまで全てオンラインというわけにはシステム上、現在のところできません。教育委員会事務局としても、現場の先生方の負担感をできる限り減らしつつ、小中一貫教育を推進して参りたいと考えています。

七月二十九日(金)に予定している第二回の担当者会も、センターと各ブロックをつないだハイブリッド型で行う予定です。集まる会場については、ブロックごとに担当者同士でご検討いただけたらと思います。よろしくお願ひします。

他のブロックは、 どんな話し合いを？

- ・ 目指す子供像、身に付けさせたい力の作成
 - ・ ブランドカリキュラムの活用、見直しについて
 - ・ 小中の数学や英語の授業をオンラインでつなぐ取組
 - ・ オンラインを利用した小小、小中の交流について
 - ・ 合同地域清掃、校区クリーン作戦の実施について
 - ・ ドリル学習ソフトの活用による基礎基本の定着
 - ・ 小中一貫合同研修会の開催方法について
 - ・ 研修会の講師の招聘について
 - ・ 小中相互の授業公開について
 - ・ 中学生の小学校訪問の取組
 - ・ ノーメディアチャレンジについて
 - ・ みそあじウィークの取組
 - ・ 管理職同士の交流について
- ※ 抜粋

コロナ禍で実施できなかった取組の復活と、ICTを活用した取組の融合！

振り返りフォームから、ブロックごとの話し合いの内容を見ますと、多くのブロックで、コロナ禍で中止していた小中の交流行事の復活に向けての話し合いと、新たに取組み始めたICTを活用した取組についての話し合いが実施されたことが分かります。

新しい取組をスタートされる際には、「スクラップ&ビルド」の考えを大切にしていたらけると、無理なく小中一貫教育を進められるのではないのでしょうか。

コロナ禍を契機に、「昨年まで実施していたから、今年も続けよう。」ではなく、「この取組は、ブロックとして十分役割を果たせたから、今年で一度見直して、必要に応じて新しい取組を始めよう！」というのはどうでしょうか？その際には、仕事量として減少させることも検討してください。無理をしても続きません。

小中一貫教育・ICT教育推進係としても、担当者の方々と意見を交わしながら、働き方も考えたい持続可能な小中一貫教育を進めて参りたいと考えます。子供の未来のために！

令和四年度に開催予定の 小中一貫に関する研究会のお知らせ

令和四年九月三十日(金)に姫路市立白鷺小中学校にて、「実践研究発表会」が開催予定です。発表に向けて、現在、実践がどんどん積み上げられています。

小中一貫教育推進担当者の先生方には、姫路市の目指す小中一貫教育を体現しておられる白鷺小中の取組にふれることで、小中のつながりの大切さを再認識する機会にしたいだけだと思います。



2022.5.20(金)白鷺小中5年生竹内教諭による実践